



特別付録 ブルーの閃光がイマドキ☆メイキングのカギを握る!!

OPTION2×エモニ PRESENTS

# サイドビューエル

OPTION2

NEO STYLE TUNING MAGAZINE

光モノと電子パーツ装着もこれさえあれば自由自在

## クルマ電気工作の基礎知識

じっくり読んでマイベストを探せ!

## ブレーキパッド Catalog

知っておきたい  
ストリートの旋

JUN.2010

06

特別定価 700 yen

合法チューン  
完全保存版 Q&A  
スペシャル!

古くはL型エンジン時代のフェアレディZから谷田部での最高速トライアルを観てきたトライアル。しかし、そんな老舗中の老舗にもかかわらず、トライアルは常にレキシブルな発想によって駆動的なマシンメイクにチャレンジし続けてきた。常に時代をリードしてきた実力派ショップなのだ。

さらに、トライアルは広大な敷地に大型のピット＆ショールームを備えており、ハンドチーンへの取り組みと同時に、いち早く「駆動の高い」チューニングショップから脱却したことでも有名。そのため、ショールームにはいつも多くのお客さんが、チューニングやメンテナンスの相談に訪れている。1度でも行ったことがあるひとならわかるように、トライアルってとても活気あるショップなのである。

そして、もうひとつトライアルの特徴として挙げられるのが、チューニングペースとしてはあまり見かけられないベース車を手がけることが多いということ。市販バージョンの少ない車種でも露骨なノウハウと高い技術力を武器に、走りを楽しめるマシンに変身させてくれるんだよね。

そのためにピットには常にパリエーション書かれた車種が並んでいる。他のショップではお手上げと言われてしまった車種などにも積極的にチャレンジするなど、老舗でありながらチャレンジする精神を忘れていないのだ。

さて、そんなトライアルから今回紹介したいのはトヨタ最後のミッドシップであるMR-S。このMR-Sはエンジンがターボ化されているんだけど、なんと言っても見ドコロは完成したばかりのワイドボディだろう。

このボディィットの試着後の全幅はノーマルの1690mmに対し、片側55mmオーバーとなる全幅1800mm。コバラトなMR-Sはパワーを大幅に上げていくとミッドシップ特有のビーキーな特性が顕を出していくけど、ワイド化することによってグリップ感がすぐくなるということ。MR-Sにとってのワイドボディ化は、それにもなった足まわりなどの作り込みをキッチリ合わせこんでやれば回頭性のよさを残しつつ、それを絶対的なコーナリング性能のアップにつなげるこ

## Mワイドボディ化による変化

とができる非常に効果的なチューニングということだった。

さらに、ルックスに聞してもGTマシン風のフェンダーラインや各部のダクト配置などによって、非常にレーシーなイメージまとめられているのが特徴となっていて、特にこのマシンではカーボンバージョンベースにクリアレッドを使ったスタイリッシュな塗りわけがなされているのが印象的。強い光が当たっているときは、カーボン地がよく透けて見えるワケありのペイント術も施されているんだよね。「エアロメイクはとりあえずひと段落したので、次はエンジンのリマイクにとりかかる予定に立ってるんだ。MR-SはNAのまま眺めていても楽しいし、過給器でやるのも刺激があってエエな。どちらにつけ、ミッドシップならではのコーナリングがたまらんし、それをより伸びさせるためのワイドボディ化はオススメやね」というトライアル代表のマッキー牧原。最近、またサーキット走行を再開したらしい、このマシンの仕上がりにも興味津々といった感じだったぞ。



トライアル  
牧原 サン

「あの件のアフターパーツやカーボンのカーボンはかなり高いアカシやろ? そこそこ高いけど、このMR-Sはかなり重い車両なのでしているところで、乗り物もちろんだけどとにかくカッコいい! まだ撮影してないけど、すでに多くのひとから問い合わせをもらってるや」





■軽量なハードトップはFRP製が2万円、カーボン製なども軽量化されている。スポーツ型の車両なら、やはりソフトトップではなくてどちらかがりかな? ワイドボディーにあわせた丸型のヘッドランプや、車体側面のドライバーセットのアーチ型ドア、車体下部のプロテクタも吸収しているので、そちらも注目したいところだ。



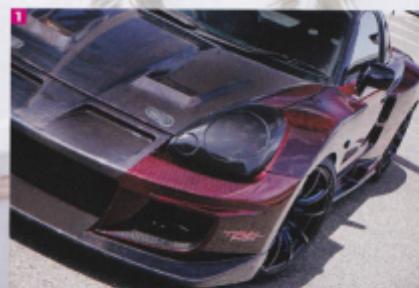
4



5



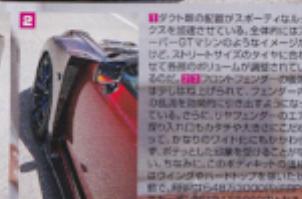
6



1



3



2

■ダクト部の配管がオーバーハングスタイルを実現させている。全般的にはスパークルーティングのようないmageだけだが、スリートサブのタイヤを合わせて各部位のヨコムが調和されている。■(左)フロントマスクの横溝の内側は上昇して、フロントマスクの外側は下がっている。ドアミラーもドアミラーが入り込む位置で大型化され、ドアミラーの位置に合わせて、かなりのワイドにむかわらす。ボトムした位置を空けたことがない。ちなみにこの車のマットの下の緑はヨコモの赤いドアトップを採用した状態で、通常から4倍以上の3000万円前後で販売。値は347万円となる。

■ライバルのクリアブルーの横幅を横幅の少ないGT-Rと、差別化してワイド化したところに改めて注目が集められる予感。セールスも強め。■(右)車側面のアーチ型ドアが並んでいる程度と、とってもシンプルな仕上がりにしてしまう。これがどういった車に似ていくのか楽しみ! ただ。

ミッドシップの魅力を最大限に引き出すための秘策  
MR-Sはワイド化でリアル・スポーツへと進化する!

## TRY FORCE MR-S Version Wide

Produced by TRYAL

販売協力:トライアル 大阪府寝屋川市東区丹比1-1  
☎072-389-3859 <http://www.tryal.co.jp>



# TRY FORCE MR-S

## Version Wide

Produced by TRIAL



JUN  
**06**

01	02	03	04	05	<b>06</b>	07	08	09	10	11	12	13
Sun	wed	Thu	fri	Sat	Sun	mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun

OPT2  
選択日



OPTION 2  
EXCITING  
CALENDAR

14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
mon	tue	wed	thu	fri	sat	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat	sun	mon	tue	wed